

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

New!

酪農とのかけはし／ 中村恵美さん

監査室だより

農協法改正による全中監査の変化と
求められる農協の対応

購買部だより

全酪連「若齢預託牧場」竣工式行われる



酪農トピックス／

「兵庫県酪農農業協同組合」誕生（大阪）ほか

日本酪農見て歩紀（北海道釧路市鶴居村 夢牧場）

酪政連活動報告



5

2016 May No.608



全国酪農業協同組合連合会



▲ 小坂牧場にて

中学校の頃に進路を決める時に食べる事が好きだったので、将来は食糧生産に携わる仕事がしたいと思い農業高校へ進学を決意しました。農業高校へ進学したばかりの頃は牛の事は全く知らない素人でした。高校1年生の時に県内の八ヶ岳にある農業実践大学校へ酪農実習に行った事がきっかけで酪農に興味を持つようになりました

その職業に携わるまでの道のりや、やりがい

今回は長野県伊那市の牧場で働いている中村恵美さんにインタビューさせて頂きました。

中村 恵美 さん

20歳・長野県伊那市在住。

平成27年3月、長野県上伊那農業高等学校を卒業し、生まれ育った地元にある小坂牧場に就職。就職し、やっと1年が経過。小坂牧場は伊那酪農業協同組合(桃澤明代表理事組合長)所属。

仕事内容

朝晩の搾乳作業、給餌作業、牛舎の掃除、牛の移動など。最近では人工授精も担当させてもらえるまでになる。

第1回 牧場作業員

酪農との

がんばり



酪農2年生! 地元で酪農を勉強中!!

 1日の タイムスケジュール 牧場従業員の	4:30	5:30	8:00	9:00	9:30	11:00	15:00	19:00	21:00
	起床	搾乳作業	給餌作業	休憩	牛舎の掃除、 牛の移動など	休憩、 自由時間	夕方 搾乳作業	プライベート	就寝

この度の熊本地方を震源とした大地震により、被災された皆様へ心より
お見舞い申し上げます。皆様の安全と1日も早い復旧を祈念いたします。
全酪連としましても、的確な被災状況の把握につとめ、復旧に向けて可能な
限りの支援を行ってまいります。



▲ 小坂牧場にて

た。その実習がきっかけで夏休み明けの2学期から酪農について一生懸命勉強しました。その頃から「高校卒業後は酪農に携わる仕事がしたい」と強く思うようになりました。

酪農はきつくて、きれいな仕事じゃないから敬遠されがちですが、心から楽しそうに仕事をする酪農家さんに出会った事が将来酪農に携わっていききたいと思うようになった一番のきっかけでした。

今一番やりがいを感じているのは、自分で人工授精した牛に

種が止まっていた時です。まだまだ人工授精について勉強中の身である為、繁殖を任せてもらえる頭数は少ないですが受胎率を上げられる様に励んでいきたいと思っています。

自身の仕事と酪農との関わり

農業高校を卒業した同級生40人の中でも農家に就職した人は私1人です。乳生産現場で働く事で、日本の食糧生産を支える1人として自分の仕事に誇りを持って働いています。牧場での哺育、給餌、搾乳、清掃全ての



◀ 人工授精

▼ 特技の習字



仕事が好きで毎日充実した日々を過ごしています。

あなたから見た酪農の魅力

私は牛が好きなので牛に関わる仕事がしたいと考えていました。酪農は大好きな牛に携われる事が一番の魅力だと感じています。また牛に愛情を注いで一生懸命頑張った分、結果に繋がってくる事も大きな魅力だと思っています。

酪農に望むこと

酪農家戸数が減少していく現状を知らない人が多いですが、

消費者の皆さんに酪農家の厳しさを理解してもらいたい牛乳をたくさん飲んでもらいたいのと思っています。

全国の酪農家に一言!



酪農に携わって2年目です。まだまだ分からない事だらけですが、これからも牛に愛情を注いで頑張っていきます。皆さん宜しくお願いします！



▲ 今年3月に長野県B&W賞でデリークイーンを務めた

2

農協法改正による 全中監査の変化と 求められる農協の対応

(2回シリーズの2回目)

ますます求められる内部管理態勢
(内部統制)の構築と強化

(注)内部管理態勢は主に農協で使われていた用語、内部統制は主に会社で使われていた用語として今回は同じ意味として使用しています。

1 前回のとおり。農協法が改正されJA全国監査機構の監査(以下、全中監査)に関して

① JA全国監査機構そのものが、平成31年度から一監査法人になること。

② 全中監査を受ける義務があった農協は、全中監査のかわりに会計監査人(監査法人)を選任して監査を受けることになる。

(監査法人の選任は監事が総会に諮る)

③ 決算時に監査法人は貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案を監査するのみで業務監査は同時に行わない。(依頼する場合は決算時以外の別の時期に別料金で請け負う)

④ 監査費用(監査の報酬)増加の可能性

⑤ それぞれの組織は今後、内部管理態勢(内部統制)の構築と強化が、ますます求められるようになる。等を述べました。

2

監査法人監査と今後農協の内部
管理態勢(内部統制)の構築と強化

前回でも少し触れましたが、監査法人監査になると今後農協において内部管理態勢(内部統制)の構築と強化が求められるのかという点をもう少し述べておきます。

監査法人監査の目的は財務諸表で「重大な虚偽表示」を見逃さないことです。

これに関して財務諸表監査で一番大切なプロセスが「リスク評価」と言われる作業です。

この「リスク評価」は被監査組合の外的、内的経営環境や内部管理態勢を理解して、虚偽表示のリスクがどこに存在する可能性があるかを評価するプロセスです。

この評価をする時のポイントが

1. 内部管理態勢(内部統制)の評価

2. IT統制の評価

3. 経営者アίσカッション

の3点であるとされています。

今回は紙面の都合もあり「1. 内部管理態勢(内部統制)の評価」についてさらに述べます。

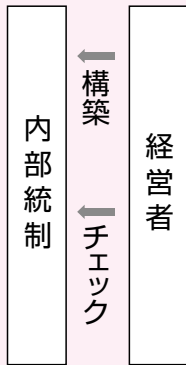
3 内部管理態勢(内部統制)の評価

前回、これからの法体系の流れとして農協法と会社法のイコールフィッティング(一体化)が進むであろうと述べました。この動きに連動するように、農協でもこれから内部管理態勢(内部統制)の高度化が求められてくると予想されます。

会社法ではいわゆる業務全般における内部管理態勢(内部統制)が求められています。

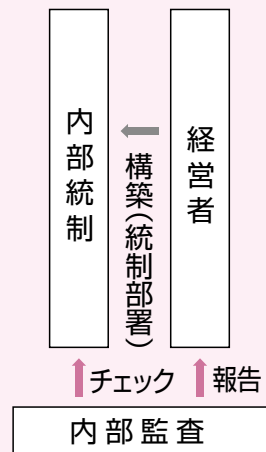
ザックリ言うと、まず経営者に求められることは、内部管理態勢(内部統制)を自ら構築することです。そしてその内部管理態勢(内部統制)が機能しているかを自らチェックします。しかし社長や組合長が両方を自から行うことは事実上物理的にもできませんので、それぞれ、統制もふさわしい部署(職員)に行わせ、そのチェックも内部監査の部署(職員)にさせ、その結果を報告させるような方法で実行されている場合が多いと思います。

本来



であるが・・・

実際は



となつている場合がほとんどです。

監査法人は具体的にこのようなシステムが構築され機能しているかを経営者デイスカッションを通して確認します。

又、監査法人は内部統制を評価するために重要な勘定が発生する業務プロセスを抽出し、業務の流れを理解するため、業務方法書や業務フローの検証が必要になります。

そこで重要勘定に該当すると判断したある事業に関して

「まず業務の流れがわかるマニュアルや業務フローを出してください。」と求めることになります。

この提出されたもので監査人が業務を理解でき、内部管理態勢(内部統制)も妥当であると判断した場合は、それに依拠して監査を実施(試査)することになると思います。

しかし、「そんなものありません。」とか「今、作成中です。」と回答したり、また、提出した業務フローによって監査人が、業務の流れと、どこに業務のポイントがあり、チェックが行われているのかが理解できない資料であったりすると、そこから監査人自ら聞き取りによる業務フローの再作成が始まり、本題の帳票監査に入らず、余分な作業が発生します。

そして、該当組織の内部管理態勢(内部統制)に依拠できない(この組織がやっているやり方では、出てきている会計帳票だけを見ても信用できない、リスクがある)と判断した場合、監査人が直接いろいろなことを確認実証していく監査(精査)を計画することになります。

つまり、本社だけの監査で終わるはずのものが、監査人自らが、より深く、より広く、より深く、より長く監査(全中監査と違い、監査人監査における交通費は別途実費請求が通常とされている)する可能性が高くなり、監査工数の増加とともに費用が増加していきます。

よって、しっかりとした内部管理態勢(内部統制)の構築とその強化、及びその仕組みを機能させることは、組織をコントロールして、組織としての試合をきっちりとし組み立てていくためにも、また、監査報酬という組織費用を削減していくためにも必要だとされている理由です。

札幌
支所発

秋葉直美さん・芳賀ひとみさんが全国へ！！ —第44回北海道酪農経営発表大会開催—

3月23日(水)、札幌市「京王プラザホテル札幌」にて北海道酪農青年女性会議主催、第44回北海道酪農経営発表大会が開催され、全道より関係者合わせて約50名が参加しました。

今年度は、経営部門で小清水町の秋葉直美氏、意見体験部門で弟子屈町の芳賀ひとみ氏の発表がありました。

経営部門の秋葉氏は「我が家の伝統とともに未来へ！～継続は



▲ 引頭委員長による
開会挨拶



▲ 秋葉直美氏

力なり～」と題して発表を行いました。秋葉氏は酪農後継者として育ち、優良経営を守ってきたご両親から飼養管理や経営の基本を学びました。酪農経営においてもっとも必要なことは繁殖管理あるということ強く意識され、観察や繁殖カレンダーへの記入、繁殖検診の実施を徹底してきた結果、分娩間隔402日、平均産次2.8産という成績を10年間維持しています。平成24年からは小清水町のTMRセンターに構成員として加入され、粗飼料収穫等の作業を外部委託省力化することでより丁寧な飼養管理を心掛け、現在は個体乳量11,600キロの高泌乳を実現しています。今後の経営展開として、労働力不足の解消と生産性の向上を目的とした牛舎新築を計画され、経営転換に向けた準備を行っています。

意見体験部門では、芳賀氏が「ひとみ25歳で経営主となる」と題して発表を行いました。酪農を目指し勉強を進めてきた芳賀氏ですが、配合飼料全頭1日2kg、個体乳量5,900kgと言う実家の管理に不安を覚えたこともあり、就農後に所属した4Hクラブでの検証プロジェクトにより、実家では経費をかけずに所得率の高い「TNR（低燃費酪農）」を実現



▶ 芳賀ひとみ氏

していることが分かり、芳賀氏もそれを目指すことに決めました。25歳で経営主となった今、「女性経営者ってカッコいいで



◀ 迫田潔氏による講演

しょ！」と胸を張って言えるように、小さな目標をひとつひとつ達成しながら日々前進しています。

両名の貴重な発表に、会場からは大きな拍手が送られました。また、大会と同時に行われた講演会では、(一社)中央酪農会議 専務理事 迫田潔氏を招き、「北海道酪農の現状と未来について」と題して講演をいただきました。北海道酪農への激励をいただくとともに、TPPで耳にすることが多くなった「ホエイ」の用途や可能性についても説明され、参加者は熱心に聞き入っていました。

審査講評においては、経営部門の秋葉氏は、基礎を大切にされ、優秀な分娩間隔を維持しているところにも日々の地道な努力がうかがえる。TMRセンター利用によって個体乳量や乳質の向上だけにとどまらず、構成員との情報交換を通じてお互いに経営を伸ばそうとしていることも大変評価できるとされました。また、意見体験部門の芳賀氏は、自分に合った自分の酪農スタイル確立への努力がうかがえる発表であった、TNRは大変な技術を要するものであり、お父様の作り上げた土台を今後どのように展開していくのかとても楽しみな経営であると評価されました。両名は北海道会議の代表に推薦され、7月に愛知県名古屋市にて開催される、第45回全国酪農発表大会に出場されます。

(T.H)



▲ 会場の様子

仙台
支所発

第45回東北酪青婦酪農発表大会開催される 東北代表は八巻誠さん、菅原真由美さん

去る3月23日(水)～24日(木)、宮城県松島町「ホテル松島大観荘」にて、東北酪農青年婦人会議(半澤善幸委員長)主催の第45回酪農発表大会が開催され、当日は140名近くの酪友が東北各地から参加しました。

▶ 半澤委員長



半澤善幸委員長の主催者挨拶に続き、来賓の農林水産省東北農政局生産部畜産課井上利雄氏、宮城県農林水産部長後藤康宏氏(代読:横

山亮一次長兼畜産課長)、みやぎの酪農農業協同組合代表理事組合長伊藤一成氏からご祝辞を頂きました。

経営の部では2名が発表され、『地域資源循環型経営の復活を目



▲ 発表者の皆さん

指して ～失われた地域の循環を取り戻す～』と題した福島酪農青年研究連盟の柚原友加津さんは、原発事故の被害を受け、一時は家族を守るために父を残して福島を離れ避難生活を余儀なくされながらも、平成26年に戻ってからは、除染作業を行いつつ、仲間とともに以前のような地域循環型の酪農を復活させる意気込みを熱く語ってくれました。

『仲間・家族・そして牛と共に歩む酪農』と題したみやぎの酪農青年部・婦人部の八巻誠さんは、高校卒業後迷わず就農し、自給粗飼料100%の飼養管理で常に乳質向上を心がけ、体型重視の牛群改良に熱心に取り組み全頭自家育成を成し遂げており、また、母校の授業の一環として在校生を受け入れ、酪農について指導をしている点も発表されました。

発表された2名はいずれも優れた内容でしたが、乳質向上策、自給飼料生産、牛群改良、地域

との連携等々を考慮し、祖父から代々経営を受け継ぎ、来年には後継者が就農する八巻誠氏が最優秀となり、全国大会に出場することとなりました。

続いての意見・体験の部では4名が発表され、岩中酪青年婦人会議の畠山満理奈さんは『牛も私も女子力アップ!!』と題し、幼いころから牛が大好きだった少女がそのまま就農し、順調に進んでいた矢先に父親の突然の他界にもかかわらず迷わず続ける覚悟を決め、「牛飼い女子」の集まりに積極的に参加する姿を、福島県酪農青年研究連盟の宗像敦さんは『橋架部隊から地域の架け橋へ』と題して、スキルアップのため自衛隊に入隊するも、兄姉が家業を継がないことを知ると末っ子でありながらも就農することを決意し、今は所得向上に向け取り組んでいる姿を発表しました。宮酪青年婦人連絡協議会の菅原真由美さんは『地域に理解される酪農家を目指して』と題し、都市部の子ども達の酪農体験「わらすこ山学校」や、地域農村女性で活動する「アグリウーマン」などで精力的に活動できるのは家族の理解があってこそと感謝の気持ちを語り、最後の山形県酪農青年婦人会議の樋口和憲さんは『誇りある酪農家を目指して』と題して、子どもたちからの口癖であった「日本一美味しい牛乳を搾るんだ!」を実現するため高品質な生乳生産へ取り組む姿を発表されました。

審査の結果、東北代表には菅原真由美さんが選ばれ、全国大会へ出場となりました。

(I.M)



東京
支所発

「第15回酪農まつり」開催される

去る4月2日(土)に、酪農とちぎ農業協同組合（坂主正代表理事組合長）が主催する、“第15回酪農まつり”が、酪農とちぎ農業協同組合ふれあい牧場（高根沢町）にて開催されました。同会場では第15回酪農とちぎホルスタイン共進会も開催され、県内から選りすぐられた98頭が出品し、生産者の方々が日頃積み重ねた愛牛の成果を競い合ったレベルの高い品評会となりました。各賞受賞の皆様、おめでとうございます。

会場では、バター手作り体験、チーズフォンデュ配布、ミルクせっけん作りなど多くの参加型イベントも開催され、たくさんの笑顔が見られました。東京支所では、国産牛肉消費の理解醸成も兼ねて今年も焼肉実演を行いました。

当日は好天にも恵まれ、駐車場が満杯になるほどの来場があり、消費者と生産者の方々との交流につながる大変有意義なイベントとなりました。

(N.T)

＜共進会の主な結果＞

グランドチャンピオン：伊藤高行 氏

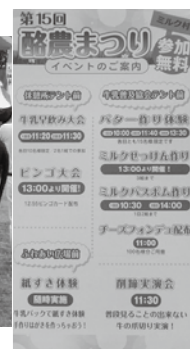
ジュニアチャンピオン：栃木県立真岡北陵高等学校

インターミディエイトチャンピオン：栃木県立那須拓陽高等学校

地区対抗牛群（3頭1組）：那須地域酪農組合



▲ 共進会審査講評の様子



◀ イベント満載



▲ 全酪連東京支所出展ブース焼肉実演

大阪
支所発

「兵庫県酪農農業協同組合」誕生

兵庫県酪農農業協同組合（丸尾建城代表理事組合長）が、平成28年4月1日設立登記を完了し、本所を神戸市西区に設置して、事業を開始しました。兵庫県内の酪農家286名が組合員となり、生乳約84千トンを生産する、全く新設の酪農専門農協です。平成26年8月20日に15名の設立発起人が参集し第1回設立発起人会が開催され、平成27年12月9日開催の創立総会を経て、新酪農協は誕生しました。この間設立発起人会は13回開催されました。

丸尾建城組合長に、設立の経緯や新酪農協の今後の取組などについてお話を伺いました。

「設立計画書の表題が「酪農家のための『県単一酪農協』」の誕生をめざして」となっているとおり、酪農家のための酪農協を設立することを目標にした。合併と言うと、何となく組織を守るような感じがするが、そうではなくて、皆が皆のための組合をつくることを目標にした。そのために、新しい組合をつくって皆が加入するという方法を取った。そして販売や購買の組合手数料は極力抑えることに

した。」と話されました。

また今後の取組については、「組合職員は既存の酪農協や兵庫県酪連（塩見忠則代表理事会長）から移籍した職員がほとんどであるが、必要最少の人数と思うので、役職員が一丸となって指導事業などサービスの充実に努めなければならないし、今までは各組合という壁があったが、県内全体を見据えた中で、集送乳の合理化などにも取り組まないとならないと思う。」と決意を新たにされておりました。

今後、兵庫県酪農農業協同組合連合会の会員である既存の5酪農協と5JAは、解散や県酪連脱退の手続きをすることになっています。新酪農協だけの1会員になった時点で県酪連の権利義務は新酪農協に承継されることになり、権利義務の承継は平成29年8月頃と見込まれています。

兵庫県酪農農業協同組合の事業が順調にスタートし、組合が確実に発展されることを祈念申し上げます。

(I.Y)



▲ 組合長室にて丸尾建城代表理事組合長(左)と団野浩平参事

大阪
支所発

大阪畜産農業協同組合 新たなスタート



小西亨代表理事 ▶

大阪畜産農業協同組合（小西 亨代表理事）は、平成28年4月1日、大阪府内全酪農家27戸の組合加入を得て、新たなスタートをきりました。大阪畜産農協は、大阪府総合畜産農業協同組合連合会（小西 亨代表理事）の会員として以前から存在していましたが、今般、府内単一の酪農専門農協として存続組合となることが決定し、大阪総畜連の事業を引継ぐ形で業務を開始しました。府内には、他に二つの酪農専門農協が残りますが、大阪総畜連は脱退し、大阪畜産農協とのダブル組合員になっています。

大阪総畜連は、大阪畜産農協を含む12専門

農協と10JAが会員となっており（他に1准会員）、今後、大阪総畜連からの脱退や解散の手続きを進めることになっています。大阪畜産農協のみ1会員となった時点で、大阪総畜連の権利義務は承継されることになり、平成29年8月頃が見込まれています。

小西代表理事は、「総畜連にはいろいろ課題があったが、ようやく組織整備の道筋ができた。これからは府内の酪農家の負託にこたえるよう、大阪畜産農協を充実させなければならない。」と語っておられました。大阪畜産農協のますますの発展をお祈りいたします。（I.Y）

酪政連活動報告

平成28年2月～平成28年4月
日本酪農政治連盟

2/17	監査会を実施(於:酪農会館) ◆ 3月開催予定の総会資料を本連盟の監事に提出し、監査を実施 (委員長・会計責任者・監事・幹事長他)	3/5	第3号議案 平成28年度会費賦課方針決定の件 第4号議案 規約の一部改正の件 第5号議案 任期満了に伴う役員改選の件 を上程し、全議案共に原案どおり可決承認される
2/18	事務局長会議を開催(於:酪農会館) ◆ 都道府県酪政連組織の事務局長等に対し、3月開催予定の総会提出議案を事前説明 ◆ 平成28年度酪農対策について、農林水産省からの説明会を実施	3/11	酪政連新潟県支部総会に出席 (於:酪農にいがた農協)(副委員長)
2/22	九州酪政連協議会の平成27年度各県会長・委員長、事務局長合同会議に出席 (於:全酪連 福岡支所)(事務局長) ◆ 今後の酪政連活動について協議	3/13	第83回自由民主党大会に参加 (於:グランドプリンスホテル新高輪)(幹事長)
3/5	常任・中央合同委員会を開催 (於:自由民主会館) ◆ 今後の酪政連活動について協議	3/22	群馬県酪政連総会に出席 (於:群馬)(幹事長)
3/5	本連盟の通常総会を開催(於:自由民主会館) ◆ 第1号議案 平成27年度運動報告並びに収支決算承認の件 第2号議案 平成28年度運動方針並びに収支予算承認の件	3/30	岡山県酪農政治連盟美作支部総会に出席 (於:おかやま酪農協)(幹事長)
		3/31	東京都選挙管理委員会に対し収支報告書 (平成27年1～12月分)を提出
		4/6	農林水産省政務三役、及び坂本哲志 自由民主党 畜産・酪農対策小委員長らに緊急要請書を提出 政府の規制改革会議 農業ワーキンググループの提言等に対する緊急要請を実施 (指定生乳生産者団体制度の問題)



No.276

夢牧場

北海道釧路市鶴居村

▲ 左より清隆さん、潤さん、桂子さん、和江さん、前列はお子さん(左より2番目、4番目)といとこたち(お姉様のおさんが遊びに来ていました)

「家族で目指すゆとりの酪農」

地域の紹介

今回ご紹介する夢牧場は、北海道東部、日本最大の湿原である釧路湿原国立公園に隣接する鶴居村にあります。村の主産業は酪農で、良質な生乳を使用したナチュラルチーズは全国的にも高い評価を受けています。また美しい村名のとおり、鶴居村は特別天然記念物タンチョウの生息繁殖地となっています。一時は生息数が激減し絶滅したと思われていたタンチョウですが、釧路湿原内で10数羽が見つかった



▲ 全景

たのを機に保護が始まり、現在は生息数も1000羽を超えています。春から夏は産卵・子育てのため観察施設で過ごしますが、冬季は専用の給餌場のほか、畑や牧場に餌を食べに来ることもあり、地元では日常的にその姿を見られるようになっていきます。夢牧場の所属する釧路丹頂農業協同組合(武藤清隆代表理事組合長)は、生乳出荷戸数150戸、生乳生産量は97,971トン(いずれも平成26年度末時点)となっています。

牧場の概要

夢牧場は、今回お話を伺った武藤潤さん、経営主であるお父様



の清隆さん、お母様の和江さん、奥様の桂子さん、従業員1名で作業をされています。清隆さんは平成25年より釧路丹頂農協の代表理事組合長を務められています。作業分担は潤さんが管理全般、お母様と桂子さんが搾乳、従業員の方が清掃や飼料作りと分担されています。お父様は常勤のため日中は不在ですが、朝晩や休日など空いた時間は一緒に仕事をされています。

現在は経産牛90頭（うち乾乳10頭）、育成70頭を飼養され、平成26年度出荷乳量は約732トンとなっています。草地は60ha、デントコーンは現在作付していません。

夢牧場は潤さんのお祖父様がこの地に乳牛2頭を導入したことから始まります。その後昭和50年に就農したお父様が土地を広げ、規模を拡大されてきました。潤さんは現在31歳で、本別農業大を卒業後すぐにご実家で就農されており、潤さんが就農された約11年前は総頭数120頭（経産牛70頭）でしたが、自家産

で徐々に現在の頭数まで増頭してきました。

飼養管理

牛舎は60頭規模のつなぎ牛舎を使用しており、牛たちは朝晩を牛舎で過ごしますが、朝の搾乳が終わると治療中のものを除いてフリーストール牛舎に移動します。牛たちにも昼間日光を当たらせたいという考えからフリーストール牛舎にはパドックが併設された作りになっており、季節を問わず日中は外給餌を行い、夕方の搾乳時にまたつなぎ牛舎に戻ります。飼料はTMRで給与され、日に数回掃き寄せをすることで牛が食べやすいよ



▲ つなぎ牛舎内部 治療中の牛のほか、分娩間近の牛も日中はこの牛舎で過ごす



▲ フリーストール牛舎に併設されたパドック

うにしています。取材時も20頭ほどがパドックから顔を出していました。

牧草はチモシーと白クローバー、ルーサンの混播で、およそ8割をグラスサイレージにしており、添加剤にはギ酸を使用しています。残りは哺育・育成牛のための乾草にします。圃場が川沿いで湿地が多く雑草が入りやすいため、7年をめどに毎年5haずつ更新を行い、更新しない圃場についても、秋にリノベーター施工、土壌分析、石灰散布を行い草地管理に気を遣って

ます。また幌呂地区は酪農専業地帯であり堆肥についても自己処理が必要となるため、草地更新や圃場整備に合わせて堆肥の処理を行っています。TMRは全酪連が飼料設計を行っており、定期的に牛の状態を見ながら潤さんと全酪連の担当が話し合い調整されています。

清隆さんから潤さんへ

平成25年にお父様が農協組合長に就任され、それを機に従業員を雇用し、現在の体制となりました。

就任当時は、それまではお父様が主体であった作業全般をすべて潤さんが主導で行うことになり、体力的にも精神的にも厳しかったと言います。中でも多くの作業をこなしながら牛を観察し、繁殖をまわすことには苦労されたそうですが、それまでの経験とお父様のフォローにより幸い事故等にはつながっていません。忙しい毎日の中、繁殖については今も特に注意を払い、つなぎ牛舎の利点を活かして



▲ 乾乳牛舎 牧場裏手の静かな場所にある

牛の観察を徹底しています。また台帳にて番号、分娩月日、授精日を管理し、分娩後60日を超えても発情兆候の無い牛には治療を行うなど、分娩間隔の短縮を図っています。

家族で目指すゆとりの酪農

夢牧場では平成19年より家族経営協定を結んでおり、日頃から家族で経営について話し合い、仕事を分担し合うことで、作業の効率化を図っています。この協定の中ではリフレッシュ休暇として「年に2回家族旅行に出かける」ということも決められ、家族にとつて負担の少ない経営を実現しています。また、消費者にも広く酪農のこ



▲ ファームステイ、酪農体験希望者のためのログハウス

とを知ってもらおうと、ファームステイや酪農体験希望者の受け入れも行っています。農協のHP等で随時希望者を募集しており、1泊の体験から長期のファームステイまで申し込むことができます。牧場には受入れのための施設として牛舎横にログハウスが整備され、訪れた人が安心して過ごせる環境が整っていました。体験者の受入れについても家族で話し合い決められた事であり、消費者にも開かれた牧場を目指しています。

今後の展望

夢牧場は今後、畜産クラスター事業を利用した牛舎新設を予定しています。新牛舎には搾乳口

ポットを2台設置し、また搾乳牛と乾乳牛を同じ牛舎内で飼養することで牛の移動を少なくした設計を考えています。搾乳口ポットの導入は、従業員の退職や家族の病気等欠員が出た場合の労働力を補えるように、また今後想定されるお子さんの行事などに家族が安心して外出できるように、という考えのもとで決められたということでした。現在は先に導入した農家を視察し、牛舎のレイアウトを構想するとともに、ロボット導入後の一群管理に向けて牛群の改良に取り組まれているということです。

また牛の増頭についても、育



▲ 育成舎 月齢に合わせて群分けされている

成牛が豊富にいたるため自家産で徐々に増頭していくことを予定していますが、牧草地にも限度があるので、100頭前後までの増頭としてゆとりのある作業を行っていくことを考えています。

牛舎新設・搾乳ロボット導入についてはこれまでにない大きな投資のため、先輩であるお父様と良く相談しながら進めていきたいと潤さんは話されています。

終わりに

取材終了後、潤さんは「いろいろ話したけど父さんの意見とはちよつと違うかもしれないな」とおっしゃっていました。お父様のことを大変信頼されている様子が取材の折々で感じられました。ちようどお昼時にさしかかり清隆さんが戻られると、親子3世代の和やかな空気につつまれました。この度は大変お忙しい中、取材へのご協力誠にありがとうございます。夢牧場の皆様のご健康と今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

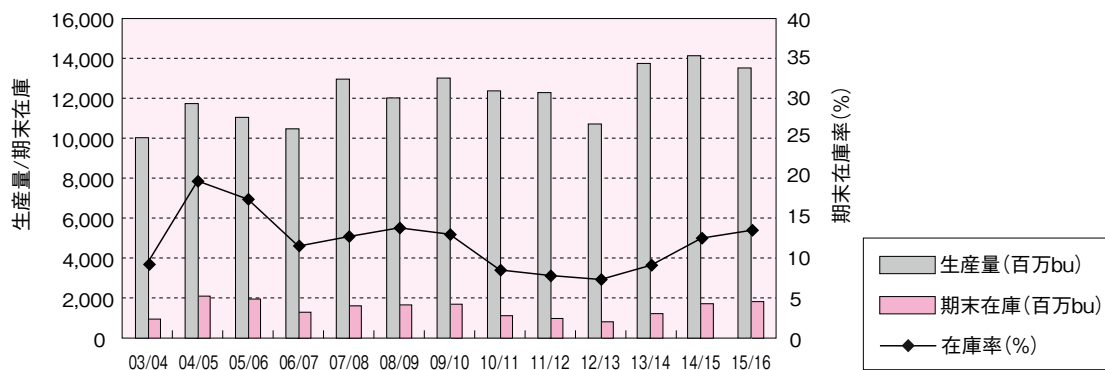


原料情勢

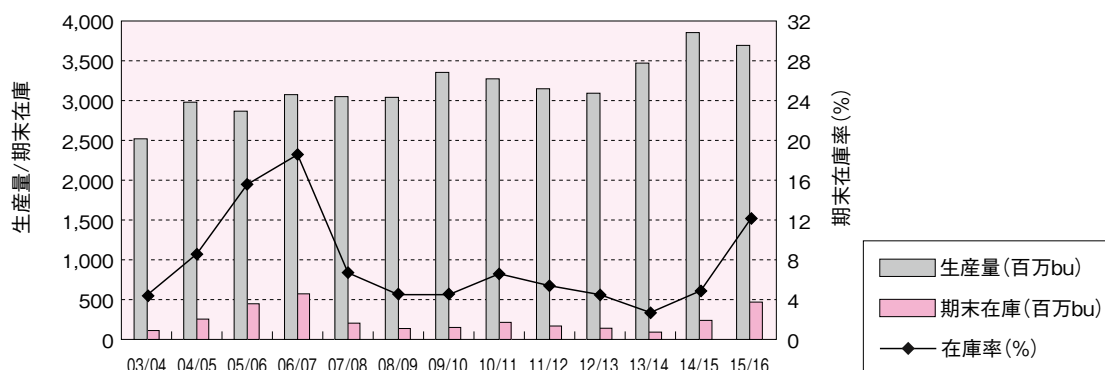
平成28年4月

4月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【14/15年度】 作付面積90.6百万エーカー、単収171.0bu/エーカー、生産量142億1,600万bu、総需要量137億4,800万bu、期末在庫17億3,100万bu、在庫率12.6% 需給両面で変化なし。
	【15/16年度】 作付面積88.0百万エーカー、単収168.4bu/エーカー、生産量136億100万bu、総需要量135億2,100万bu、期末在庫18億6,200万bu、在庫率13.8% 需要面が減少し、期末在庫は増加した。
トウモロコシ 相場動向	先月の発表以降の動きは、米国産地で悪天候による作付の遅れに対する懸念から堅調に推移した。今後のシカゴ相場は、世界全体のトウモロコシ在庫が先月に比べ増加したが、織り込まれていた感もあり、むしろ南米の天候、原油高、投機筋参加等の要因により価格は下がりにくい状況となっている。また、輸出需要は南米産のトウモロコシから米国産に切り替わってきている。今後の展開は天候を材料として相場が上昇する可能性が高い。
4月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【15/16年度】 作付面積82.7百万エーカー、単収48.0bu/エーカー、生産量39億2,900万bu、総需要量37億500万bu、期末在庫4億4,500万bu、在庫率12.0% 需要面が増加し、期末在庫は減少した。
大豆粕相場動向	米国産大豆粕は、食用油の出荷が低調なことから発生量も横ばいから若干減で推移している。また、輸入品は引き続き中国産が中心となり、シカゴ相場の上昇を受けて価格は強含みで推移している。今後のシカゴ相場は、昨年の史上最高の相場を受け需給環境は緩和しているが、原油相場の上昇、投機筋の動きにより強含みの展開となった。需給環境は引き続き緩和状況が続くと思われることから上値は限定的と思われる。今後は北米が天候相場に入るため注意を払いたい。
槽糖類	【一般フスマ】6月の粉価改定(小麦粉)で値下げが見込まれることから、4-6月期は買い控えにより発生量減少が予想される。グルテンフィードが大幅に値を下げたため、需要のシフトから若干使用量の減少も予想されるが、発生量の減少から需給は徐々に引き締まる可能性もある。
	【グルテンフィード】国内スターチメーカーでは徐々に気候も温かくなる中、稼働も良好でグルテンフィードの発生量は増加している。今期価格は余剰感から大幅に値を下げた。輸入は減少しているものの在庫がまだまだある状況。値下げの影響で需要は増加傾向にあり、需給は引き締まる見込み。
海上運賃	下落していた原油価格の反発や鉄鉱石価格も下げ止まり、国際取引が盛り返してくるという思惑から堅調に推移している。船腹余剰は解消されていないものの、船腹の解散量も増加してきており、解散量が供給量を上回った場合、船腹の需給バランスは改善されると思われる。昨年からの下落した相場も底を打ち、今後は堅調に推移していくと思われる。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢

平成28年4月

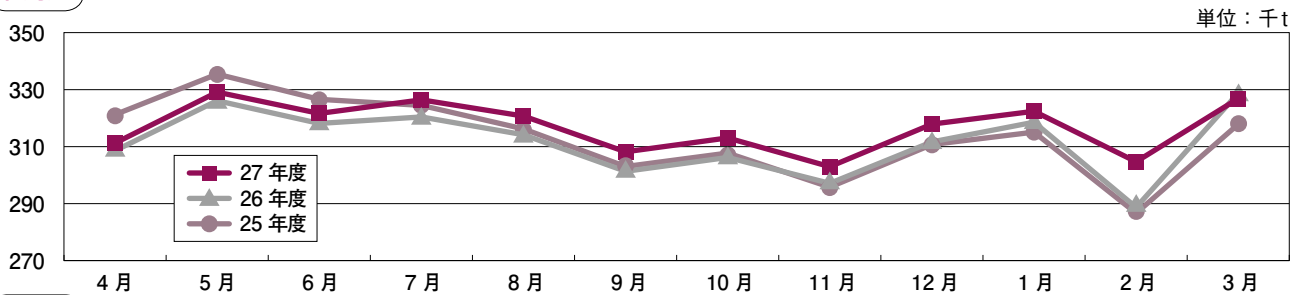
北米コンテナ船 フレート	海上運賃修復（GRI）の動向は、多くの船社が5月1日への再々延期を通知しているが、一部船社は値上げを強行している。対アジア向けの海上運賃は依然として過去最低レベルで推移しており、各船社は運賃修復に向けて動きたい状況ではあるが、中国経済の減退と船の大型化による船腹の余剰感が続いている。また、米国産地側の懸案にはなるが、昨年7月国際海事機関（IMO）にて採択されたSOLAS条約（ソーラス条約：海上人命安全条約）の改正に伴い、本年7月1日より輸出者は荷主に対し船積み前のコンテナ重量計測とその内容の申告が義務付けられることとなった。これは不正確な重量申告に起因する海難事故やコンテナの海上損失事故を未然に防ぎ、貨物輸送の安全性を確保することが目的とされているが、輸出業者にとっては手順が増えることとなり、今後の動向が注目される。
ビートバルブ	新穀の作付けは、平年並みの天候が続けば日本向けの主産地であるミネソタ州やノースダコタ州では4月中旬から順次スタートし、5月中旬から下旬にかけて終了する見込みである。米国における砂糖の需給バランスは、総需要1,200万tに対し、ビートシュガー生産量が450～500万t、ケーンシュガー400万tといわれており、不足分をメキシコを含めた他国からの輸入で補っている。砂糖は政治的な要素を強く反映するため、現行の政策や枠組みが大きく変わらない限り、砂糖の原料となる作物の作付面積・生産量の変動は少ない見込みである。
アルファルファ	カリフォルニア州では2月が温暖であったため刈取りが開始されると思われていたが、3月上旬に降雨があり気温も下がったため収穫のスケジュールは若干遅れている。産地相場は米国内酪農家からの引き合いは弱く、弱含みな状況が続いている。南部インペリアルバレーでの3月15日付け作付面積は前年同月比112%。当地域はN-GMOの作付で占有されており、N-GMO種のみ輸入が許可されている中国向けを中心とした輸出向けの需要が底堅く、作付面積は伸びている。一方、ワシントン州では16年産作付面積は昨年並みにとどまると予想するサプライヤーが多くなっている。これは生産農家によっては昨年引き合いが弱かった低分析品の在庫を抱えており、加えて米国内からの引き合いも弱いままであるため、販売面で強気になりにくい状況が続いているからである。しかし、プレミアム品の需要は国内・輸出と一定量は存在するため、16年産は低級品ととの価格差がより広がりやすくなるとの見方が強まっている。
チモシー	【米国産】主産地のひとつキティタスバレーでは懸念されていた水不足は解消し、今年は灌漑用水の問題はほぼないといい、回復している。しかし、昨年末ころから中級品から低級品の在庫過多による産地相場の下落があり、生産農家が積極的にチモシーを生産する環境ではないため16年産の作付面積は減少すると思われる。 【カナダ産】今年1～2月の輸入量は累計で11,881tと前年比78%と大幅に下回っている。これは昨年の生産量が少なかったことに加え、産地相場が下落している米国産の中級品が日本国内市場に多く供給されていることが要因と考えられている。16年産の作付面積は前年並みと予想されているが、供給先である日本および韓国の需要が減退しているため、輸出向け価格や16年産以降の作付面積にどのような影響を及ぼすか、注意が必要な状態となっている。
スーダングラス	4月1日付けインペリアルバレーの作付面積は、前年同比37%増の20,497エーカーとなっており、過去10年間の平均より多い作付けとなっている。これは代替作物である小麦の相場が低調に推移していることから早播きスーダンを選択する生産農家が増えたことが挙げられる。作付面積のピークについて現時点で予想は難しいが、過去5年で最も作付けが少なく作柄も不調であった昨年産においても日本向けにおいて不足しない見込みであることから、16年産も例年の作柄であれば供給量は十分確保できるものと考えられる。
クレイングラス	クレイングラスは全酪連の登録商標です。3月に入り気温はやや低い傾向のため、現時点での生育状況は例年に比べてやや遅れ気味だが、早い圃場では4月中旬から刈取りが始まっている。（3月15日時点での作付面積は15,234エーカー。前年同比97%）作付面積の微減の理由は、日本および韓国からの引き合いが安定的であるものの強くはなく、繰越在庫を抱えているためとされている。作付面積は今後大きく増えることは考えにくく、16年産の生産量はやや落ち込むと予想される。
ストロー類	日本および韓国からの需要がやや堅調なため、在庫はあるもののオレゴン産ストローの産地相場はやや強含みとなっている。作柄は雨あたり品が多かった14年産に比べ、15年産はシーズン後半になっても品質面の評価は良いとの情報である。
オーツヘイ	15年産の生育シーズンは早魃の影響もあり、収量は平均に比べ減少した。放牧草の生育も早魃の影響を受け順調とは言えず、国内からの需要も引き続き強い状況が続いている。このため、未成約在庫を持つ生産農家は強気な傾向にあり、その流れは輸出向け相場にも強く影響を及ぼしており、各サプライヤーからは値上げの打診が聞こえ始めている模様。産地在庫は、生産量が多かった高級品は今後の需要と北米の新穀状況次第とはいえ、端境期までの供給は問題なさそうであるが、発生が少なかった中級品の在庫については限定的になりつつあり、雨あたりなどの低級品はほぼ完売の状況である。今年も中国からの堅調な需要が見込まれており、16年の年間合計は20万tを超えるのではないかと見方がある。中国の蒙州産オーツヘイの市場に与える影響は年々大きくなっており、注意が必要である。

生乳受託販売乳量

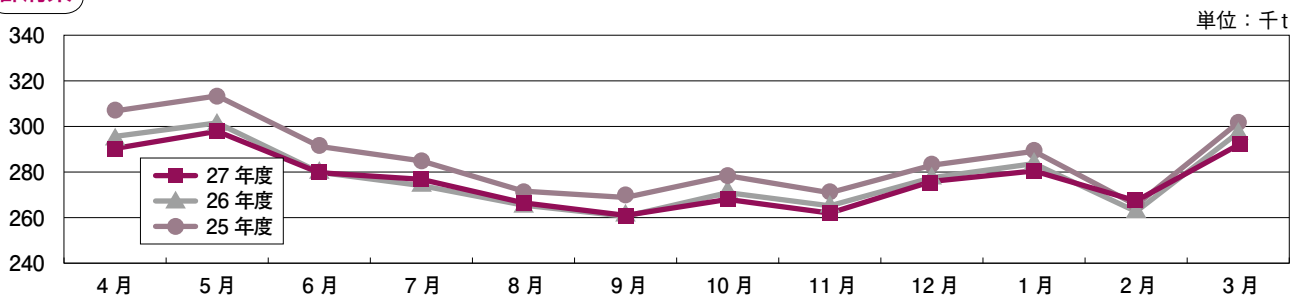
受託販売乳量

全国 618,745t で、前年同月比 192t(0.0%) 増加 都府県 291,869t で、前年同月比 5,424t(1.8%) 減少
 北海道 326,876t で、前年同月比 5,616t(1.7%) 増加

北海道

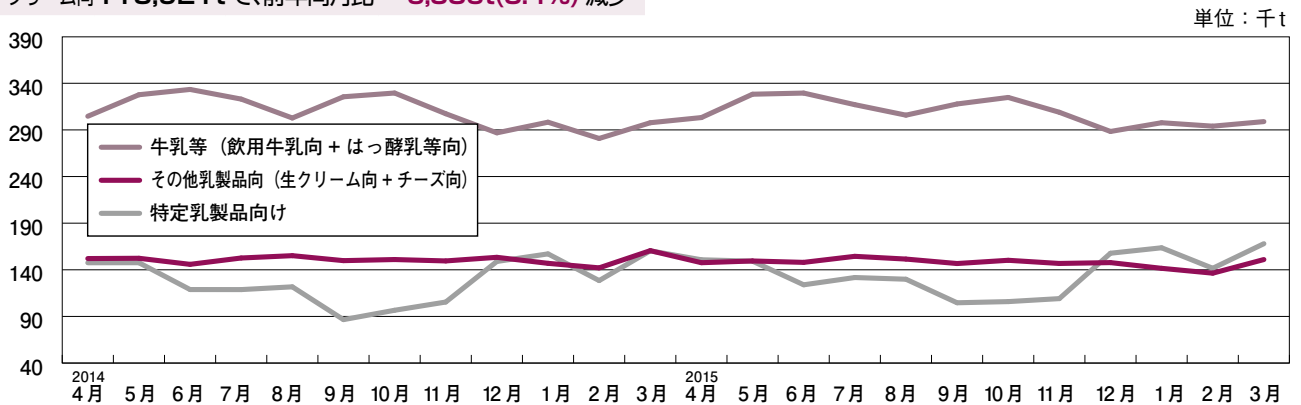


都府県



用途別販売数量

飲用向 260,005t で、前年同月比 1,240t(0.5%) 増加 チーズ向 37,102t で、前年同月比 2,959t(7.4%) 減少
 はっ酵乳向 38,977t で、前年同月比 2,535t(7.0%) 増加 特定乳製品向 168,738t で、前年同月比 8,391t(5.2%) 増加
 クリーム向 113,921t で、前年同月比 6,536t(5.4%) 減少



各地の需給動向

- 【東北】3月生乳生産量は前年比98.6%。飲用牛乳向けは98.3%。はっ酵乳等向けは117.1%。特定乳製品向けは91.7%で推移した。
- 【関東】生乳生産量は前年比99.4%。月初はひっ迫感が強かったが、3連休前にはダブつき感が生じていた感度。飲用牛乳向けは101.5%、はっ酵乳等向け100.5%、特定乳製品向けは90.5%となった。
- 【東海】生乳生産量は前年比97.6%。飲用牛乳向けは94.3%、はっ酵乳等向けは124.7%、特定乳製品向けは90.8%となっている。
- 【近畿・中国・四国】生乳生産量は近畿96.9%、中国99.6%、四国94.3%。処理は当初タイト感も、徐々に落ち着いて推移、飲用牛乳向けは近畿97.8%、中国99.4%、四国98.0%となった。
- 【九州】生乳生産量は96.7%。当初ひっ迫感も中旬頃から落ち着いてきた。飲用牛乳向けは93.7%、はっ酵乳等向け107.4%、特定乳製品向けは98.2%となった。

用途別生乳処理量

単位：千t

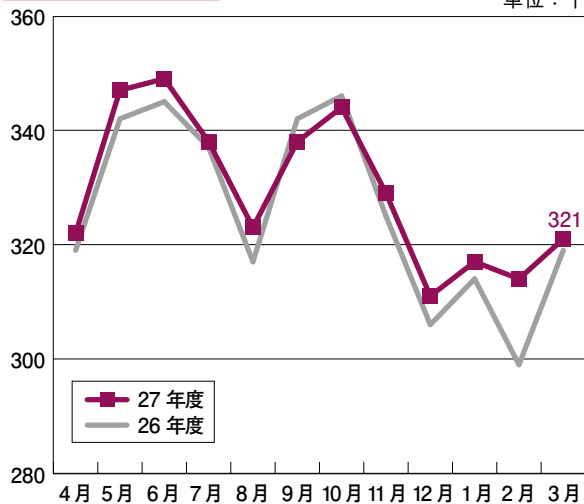
年月	生乳 生産 量	用途別処理量計							年月	生乳 生産 量	用途別処理量計								
				乳製品向										乳製品向					
				牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向								牛乳等向 ①	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向			
			ク リ ャ ム ③			チ ーズ向 ④				ク リ ャ ム ③	チ ーズ向 ④								
2014. 4 月	627	622	319	303	148	155	112	43	2015. 4 月	625	620	322	298	148	150	114	37		
5 月	650	645	342	303	148	155	112	44	5 月	649	644	347	297	151	146	109	37		
6 月	619	614	345	269	120	149	108	41	6 月	625	620	349	271	126	145	107	38		
7 月	618	613	337	276	120	156	113	43	7 月	629	624	338	286	133	153	110	43		
8 月	600	595	317	278	126	153	111	42	8 月	608	604	323	281	133	148	107	41		
9 月	583	578	342	236	88	148	109	39	9 月	593	588	338	250	107	143	107	36		
10 月	598	593	346	247	100	148	112	36	10 月	603	599	344	255	107	148	111	37		
11 月	584	579	325	254	107	147	112	35	11 月	588	584	329	255	110	146	110	36		
12 月	613	608	306	302	151	152	111	40	12 月	620	616	311	304	158	147	109	37		
2015. 1 月	624	619	314	304	158	146	105	41	2016. 1 月	627	623	317	305	165	140	101	39		
2 月	573	568	299	269	128	142	101	40	2 月	595	591	314	277	142	135	100	35		
3 月	642	637	319	319	159	160	117	43	3 月	644	639	321	318	170	148	109	39		
年 度 計	7,331	7,271	3,910	3,361	1,552	1,810	1,324	486	年 度 計	7,407	7,352	3,953	3,398	1,649	1,749	1,295	455		

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

単位：千t未満を四捨五入した数値を標記しているため、各項目の合計と表の合計とが合致しない場合がある

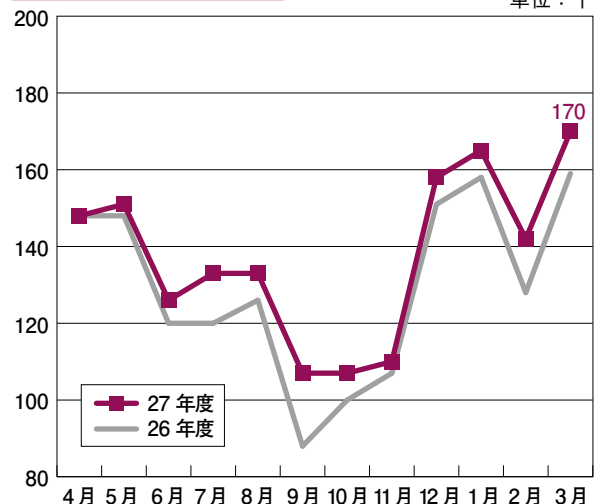
① 牛乳等向処理量

単位：千t



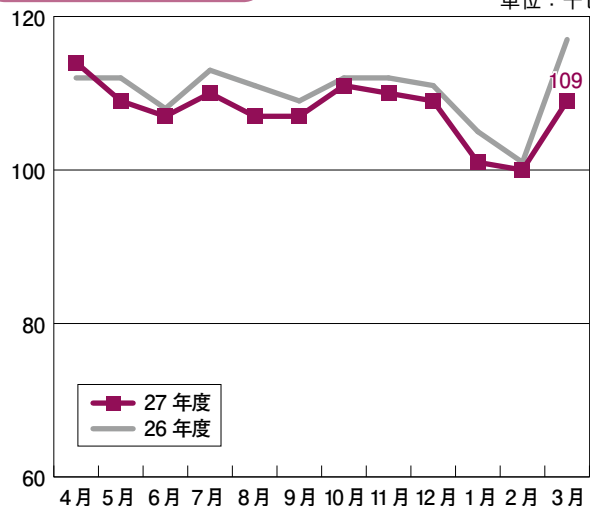
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



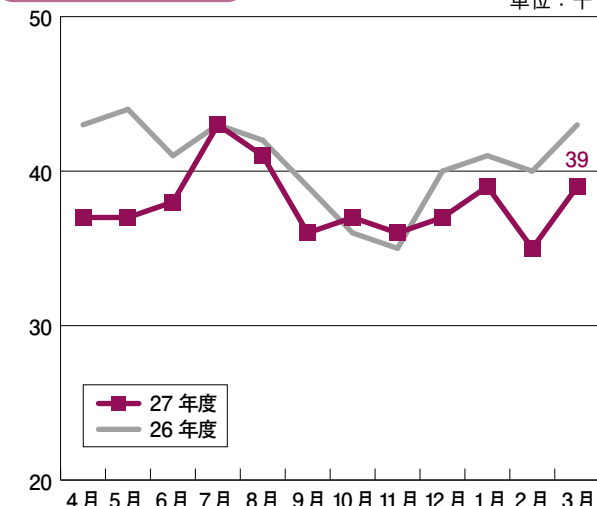
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



北海道 乳牛産地情報

平成28年5月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ◆……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	札幌管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計(累計)で98.5%、苫小牧管内月計(累計)で99.2%の実績となっている。 5月の初妊牛動向は、7月下旬から8月分娩予定の牛が中心。夏分娩となるため府県からの需要は落ち着いてくる時期となるが、ここ数カ月の初妊牛相場の高騰を受け販売者の意識が高まっていること、道内の他地区からの購買客が多くなっていることから初妊牛価格は横ばいからやや弱含みで推移するものと思われる。腹内容はF1腹の販売が大部分を占めるものと予想される。
	初妊牛	65~73	◆	
	経産牛	50~55	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	根釧管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計(累計)で105.2%、中標津管内月計(累計)で103.6%の実績となっている。 5月の初妊牛動向は、7月から8月分娩予定の牛が中心。上昇を続けていた乳牛市場も4月は一息ついた感があり、府県からの導入希望は夏産みのため減少すると見込まれるが、大型牧場の導入や地元での導入が活発であること、資源状況に余裕があるとは言えない事などから相場は堅調に推移するものと思われる。
	初妊牛	68~75	→	
	経産牛	50~55	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	帯広管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計(累計)で104.5%の実績となっており、5月の初妊牛動向は、7月分娩予定の牛が中心となる。 道内の大型農場の増頭や新規大型牧場稼働などにより夏分娩の腹であっても引き合いが強く、価格は堅調に推移するものと思われる。腹内容については、F1腹の需要は依然として高く、また、育成牛価格の高値安定を受け後継牛確保のための雌雄選別精液腹の需要も今後は高まってくるものと思われる。
	初妊牛	70~76	◆	
	経産牛	52~58	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	45~55	→	道北管内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計(累計)で102.3%、北見管内月計(累計)で100.7%の実績となっており、5月の初妊牛動向は7月~8月分娩中心となる。 生乳生産を3月までに終え4月に全道各地で離農があった。このような状況で酪農家戸数減少と同時に育成・初妊牛の資源状況は増々逼迫しているが、依然として道内の大型牧場の導入による増産体制が続いている。これから分娩が夏季に向け都府県の需要が弱まって来ると思われるが、依然として資源不足が見込まれ平均価格はやや弱めか、横這いで推移すると予想される。
	初妊牛	68~75	◆	
	経産牛	50~55	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	45~55	→	道内の4月中旬までの生乳生産量前年比は、月計(累計)102.8%の実績となっている。 5月の初妊牛動向は、7月~8月分娩中心となる為、都府県導入は減少すると思われる。しかしながら、道内外における新規酪農参入やクラスター事業での規模拡大等の多頭導入の案件もある事などから極端な値動きはないものと思われる。 5月下旬には放牧も始まる為、導入の予定がありましたら早めにご連絡を頂きますようお願い致します。
	初妊牛	68~75	→	
	経産牛	50~55	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

台車は、僕の特等席!! これなら怖くないぞ!!

今月の表紙は、「第6回酪農いきいきフォトコンテスト」(第44回全国発表大会にて開催)で応募いただいた「台車は、僕の特等席!! これなら怖くないぞ!!」(愛知県 片岡真里氏 撮影)です。いつかこの台車を押して、手伝ってくれる日が待ち遠しですね。牛さんも温かく見守っています。



▼表紙の横断幕は、先日4月21日(22日)に開催された西日本酪農青年女性会議 酪農発表大会時に九州の皆さんへお見舞いとして激励のメッセージを寄せていただいたものです。お心遣いありがとうございました。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

編集後記

平成28年5月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 5月号 No.608

●編集・発行人 大森 一幸
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003
<http://www.zenrakuren.or.jp/>

全酪連 「若齢預託牧場」 竣工式行われる

—全酪連 酪農技術研究所—



去る3月24日(木)、福島県矢吹町の全酪連酪農技術研究所において、若齢預託牧場竣工式・祝賀会が行われました。

全酪連では従来、事業の基本方針として酪農生産基盤維持・拡大を重要課題としております。この基本方針に沿った後継牛確保事業として『全酪連販売預託事業』を展開してきましたが、今般、この同事業の拡充を図る目的で、全酪連酪農技術研究所内に若齢預託事業施設の建設を進め、この度、竣工の運びとなりました。

祝賀会で挨拶に立った本会小谷英穂常務は「全酪連の販売預託事業について、もっと若齢から預けたことの要望が強くなった。酪農家の労力軽減と生産基盤の維持に少しでも貢献したい」と述べました。続いて地元福島県酪農協同組合の安斎利勝副組合長が来賓として御挨拶され「全酪連の預託事業の利用者からは、戻ってくるウシの腹がすっかり出来ていて非常に良いと評判で、年々上牧が増えていく。組合としても乳牛資源の減少に歯止めをかけるため取り組みを

進める」と述べられました。

若齢預託牧

場は4月より

稼働し飼養管

理は全酪連酪

農技術研究所

のスタッフが

担当。生後6日

齢までの預託

が可能で、受

け入れ頭数は

月間60頭(年720頭規模)。哺育牛舎は計4棟で、このうち1

棟は受け入れ直後の馴致向けで、

3棟には1台ずつ哺乳ロボット

を導入し、集団哺育を行います。

離乳後はフリーバー

ンの育成牛舎で飼

養。4カ月齢以降か

らは北海道内各地の

預託牧場へと移し、

分娩前の初妊牛とし

て都府県の酪農家に

戻します。当面は当

研究所近郊地域を中

心に預託を受け入れ

ていきます。

全酪連購買部

(TEL:03-5931-8007)

もしくは各支所購買推進課まで





今月の



入賞作品紹介

うしをみたよ。おおきくてびっくりした!

由布市立西庄内幼稚園(九州)5歳 中島 佑斗



今月の入賞作品は、由布市立西庄内幼稚園(九州)5歳の中島 佑斗さんの作品です。絵具とクレヨンを上手にを使って、大きな牛さんを画面いっぱいに力強く描きました。線はのびのびとしていて躍動感があります。背景の青い絵具もリズム感があり、観る者をワクワクする気持ちにさせます。笑顔の表情がいいですね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第42回うしろのうこどもギャラリー」で全国588点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議